

# 美術史・文化遺産実習2C-II

科目ナンバリング FAH-208  
選択必修 2単位

岡部 昌幸

## 1. 授業の概要(ねらい)

日本の古美術品や染織品、それらに関係する史資料に直接触れ、そこから様々な情報を読み取る訓練をおこなう。まずは、美術資料の正しい取り扱い方を習得する。その上で、各々の美術資料から必要な情報(材質、技法、箱書きや作品に記されている内容、製作者の情報など)を読み取り、それらを分析して、作品解説する方法を身につける。そのため、簡単なくずし字を読むスキルも必要となる。また折にふれ、展覧会見学会を行い、実作品を観察して自ら何かを発見する経験を大切にしたい。秋期は、染織品の取り扱いや、古美術品の作品調査とその解説を書く実習をおこなう。作品調査の成果は図録として刊行する。

## 2. 授業の到達目標

美術資料の基礎的な調査方法をマスターし、解説が書けるようになること。

## 3. 成績評価の方法および基準

平常点(出席態度、授業内の課題)(60%)や課題の出来(40%)などを総合的に判断して評価する。

## 4. 教科書・参考文献

## 5. 準備学修の内容

なるべく多くの美術館、博物館へ行き、自ら何かを発見する経験を多くもつこと。

## 6. その他履修上の注意事項

授業時間外に、美術館への展覧会見学や、外部の博物館へ作品調査に行くことがある。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス 授業の内容と進め方の説明
- 【第2回】 古美術品の取扱いと調査方法
- 【第3回】 展覧会見学会①
- 【第4回】 作品調査①調書
- 【第5回】 作品調査②写真撮影
- 【第6回】 作品解説を書く①
- 【第7回】 作品解説を書く②
- 【第8回】 展覧会見学会②
- 【第9回】 作品図録出版作業①
- 【第10回】 作品図録出版作業②
- 【第11回】 染織品の取扱い①講義
- 【第12回】 染織品の取扱い②実践
- 【第13回】 束帯、衣冠、狩衣を着る
- 【第14回】 模擬展示会とギャラリートーク
- 【第15回】 まとめ